

全農薬通報

No. 340

2023年（令和5年）8月31日

目次

◎主な行事予定

- ・全国農薬協同組合
- ・植物防疫関係団体

◎組合からのお知らせ

- ・第50回全国農薬安全指導者協議会常任幹事会報告
- ・農薬シンポジウム in 山形 2023 開催のお知らせ

◎行政からのお知らせ

- ・食品衛生法施行規則の一部を改正する省令及び食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件について

◎全農薬ひろば

- ・サルスベリ



全国農薬協同組合



〒101-0047 東京都千代田区内神田 3-3-4 全農薬ビル
TEL:03-3254-4171 FAX:03-3256-0980
<https://www.znouyaku.or.jp> E-mail:info@znouyaku.or.jp

全農薬の主な行事予定

「全国農薬協同組合」

2023年（令和5年）

9月12日（火） 農薬シンポジウム（山形県）

9月21日（木）10:30～17:00 第309回 理事会（執行部協議会、各委員会）

10月16日（月）～20日（金） 第100回 植物防疫研修会

10月18日（水）～20日（金） 第10回 農薬安全コンサルタントリーダー研修

10月24日（火）13:30～15:30 監査会（理事長、監事）

11月15日（水）時間調整中 第310回理事会

11月16日（木）10:30～19:30 第58回通常総会・第46回安全協全国集会

12月13日（水）10:30～17:00 第311回理事会（執行部協議会、各委員会）

12月14日（木）10:30～12:00 全農薬受発注システム利用メーカー協議会総会

「植防関係団体」

報農会

9月20日（水） シンポジウム及び功績者表彰式（オンライン）

日本植物防疫協会

9月27日（水）～28日（木） シンポジウム（長野市）

農薬工業会

11月8日（水） 虫供養

残留農薬研究所

11月20日（月） 50周年記念行事



ダリア “ホンカ フラジール”

（学名: *Dahlia* 属）

撮影場所：上野東照宮ぼたん園

花言葉：『威厳』『優雅』

撮影者：MIYASAKA

組合からのお知らせ

1. 第50回全国農業安全指導者協議会常任幹事会 報告

日 時：2023年7月27日（木）13：00～

場 所：全農薬ビル会議室

参 加：大森理事長、橋爪会長、菊地副会長、津藤副会長、田邊副会長、
木幡委員、佐藤友紀委員、金田常任幹事、森常任幹事、田尻常任幹事、
田中常任幹事、黒田常任幹事、金子幹事（池田委員代理）
鈴木参事、植草顧問（計16名）

挨 拶：橋爪会長より開会の挨拶に続き、全員の自己紹介を順次行った。

議 事：13：30～15：20

(1) 2023年度事業中間報告

①2023年度 安全協 活動状況報告

(1) 安全協 第45回全国集会

2022年11月17日（水）13:00-17:00 海運クラブでの開催を予定したが、新型コロナウイルスの感染拡大状況をふまえ、参集される皆様方の健康・安全を最優先に考慮し、書面による報告とオンラインによる講演会とした。

書面報告内容

- ・2022年度事業報告、収支決算
- ・2023年度事業計画（案）、収支予算（案）

(2) オンライン講演会（ウェビナー）

コロナ禍により一昨年、昨年は連続して中止せざる得ない状況となっており、本年こそは講演会を開催したいとの想いと要望があったが、依然としてコロナ禍は先行きの見えない状況にあるため、本年の全国集会講演会はリアルタイム配信によるオンライン講演による開催とした。213名の申込・参加があった。

・配信会場

アーバンネット神田カンファレンス 会議室（千代田区内神田3-6-2）

会場において、全農薬役員と事務局の計21名がリアル参加した。

○開 会：13：30～13：50

- ・理事長挨拶
- ・来賓挨拶

農林水産省消費・安全局安全管理課 農薬対策室長 楠川 雅史 氏

○講 演：13：50～15：10（質疑応答含む）

- ・演題 「みどりの食料システム戦略実現に向けて～植物防疫の立場から～」
講師 一般社団法人 日本植物防疫協会 理事長 早川 泰弘 氏
- ・演題 「これからのプロ農家は“作る”だけでなく、ファクトを“発信”し

なければならない」

講師 トゥリー&ノーフ株式会社 代表取締役 徳本 修一 氏

○閉 会：16：40～16：50

- ・委員長（安全協会長）挨拶

(2) 第98回・第99回 植物防疫研修会報告

- ・第98回 2022年10月3日（月）～10月7日（金）
全農薬組合員 25名参加
- ・第99回 2023年2月6日（月）～2月10日（金）
全農薬組合員 18名参加

(3) 第9回農薬安全コンサルタントリーダー研修会報告

2020年はコロナ禍により中止を余儀なくされたが、2021年は研修形式を変えメディア研修として実施された。2022年度も引き続き昨年同様にメディア研修形式として、2022年10月17日（研修用動画・テキスト郵送、到着後開始）～11月4日の期間で開催され終了した。

- ・開催形式
メディア研修：研修動画を記録した媒体（DVD2枚を送付）を視聴し受講
修了試験：試験会場へ集合して実施
- ・開催日時
研修視聴期間：2022年10月17日（月）～11月3日（木）
修了試験：2022年11月5日（金）1回目 11：00～12：00
2回目 14：00～15：00
- ・試験会場：全農薬ビル9階会議室
受講者：25名
- ・研修実施方法
研修資料：各講義資料（研修動画記録媒体、各講義テキスト等）を郵送
受講（視聴）方法：受講者へ郵送されたDVD（MP4ファイルとして各講義動画が記録）研修動画をパソコンで一定期間視聴し受講。
- ・修了試験：11月5日（金）午前の部（13名）、午後の部（12名）
修了試験前に研修動画記録媒体（DVD）を返却。
午前と午後に分かれて全農薬会議室において修了試験を行った。
- ・試験結果
平均点：88.2点 最高点：100点 最低点：70点
- ・結果：25名全員合格

試験の可否については、後日通知書をお送りした。

(4) 2023 年度地区会議 全農薬現況・課題報告、講演に代わるリモート研修会 について

昨年に続く全国的なコロナ禍が収束に向かい始めたことから、2023 年（令和 5 年度）の地区会議は九州地区を除き、例年通りリアル開催となった。詳細は全農薬通報 337 号に掲載。

九州地区においては開催が中止されたこと、また、各地区においても参加についてはまだ懸念が残るため、昨年度に続きリモート研修についても実施した。全農薬のホームページに、会員限定の安全協ポータルサイトを設け、視聴しアンケートに答える形式とした。アンケートに答えることにより、農薬安全コンサルタントリーダー資格取得に繋がるようにした。

○全国版

- ①「理事長挨拶と概況報告」 全国農薬協同組合 理事長 大森茂
- ②「農薬をめぐる最近の動向について」 農林水産省 農薬対策室
- ③「残留農薬基準値超過・不適正使用防止対策について」 本部研修

○各地区版

- ・北海道地区：「令和 5 年に特に注意を要する病害虫」
道総研 中央農業試験場 病虫部 予察診断グループ
- ・東北地区：「秋田県におけるドローンを活用した農薬散布の取組について」
秋田県農業試験場 生産環境部
- ・関東甲信越地区：「本気で取り組む二ホンナシの IPM」
千葉県農林水産部 担い手支援課 専門普及指導室
- ・東海地区：「水稲不耕起 V 溝直播栽培におけるシハロホップブチル抵抗性ノビエの防除法」
愛知県農業総合試験場 作物研究部
- ・北陸地区：「令和 4 年度における病害虫の発生状況と今後の防除対策」
富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課
- ・近畿地区：「クビアカツヤカミキリ被害対策、モモ・ウメにおけるクビアカツヤカミキリ防除」
大阪府立環境農林水産総合研究所 食と農の研究部 防除グループ
- ・中四国地区：「香川県における環境にやさしい農業の取組について」
香川県農政水産部農業経営課
- ・中四国地区：「愛媛県における最近の病害虫の発生と対策」
愛媛県農林水産研究所 農業研究部
- ・九州地区：「最近話題の病害虫と防除対策」
宮崎県西諸県農林振興局（農業改良普及センター）

○指導農薬版

- ・ランネート普及会 「ランネートの 責任を持った使用 の啓発活動について」
- ・プリグロックスL協議会 「プリグロックスLを安全に使用するために」
- ・クロルピクリン工業会 「クロルピクリンの安全・適正な使用について」

地区会議の代わる研修アンケート集約結果報告（全農薬通報 338 号掲載）

(5) 農薬シンポジウムの開催（山形、大分）

2023 年は、一昨年春より続く新型コロナウイルス感染拡大より、参加者の安全確保を最優先に関係機関と協議し、開催について検討され、山形県について 9 月に開催を決定して準備が進められている。大分県支部は昨年同様延期と判断した。

- ・「食の安心・安全 農薬シンポジウム in 山形」
- ・日時：2023 年 9 月 12 日 開催予定（本誌 P14 に案内を掲載）

(6) 危害防運動について

- ・2023 年度危害防止運動“一声運動”媒体品

希釈早見表	円盤型	10,170 枚
	シール型	4,560 枚
ひと声運動ポスター		2,240 枚
毒物及び劇物譲受書		3,140 部
のぼり旗		733 枚

2023 年度“ひと声運動”媒体品として、安全協支部からの希望を聞き取り、希釈早見表は円盤型とシール型の 2 種類を作成し 3 月末までに各道府県安全協支部に配布した。農薬危害防止運動アピールするため、のぼり旗も 733 枚作成し、6 月からの危害防止月間に合わせて組合員事務所、得意先（販売店）等に設置した。

- ・危害防止活動（キャンペーン）の実施
各道府県安全協支部で危害防止月間に合わせて関係先への巡回活動を実施した。計画書を提出した 21 支部にはマスク「ケミカットエース」を各支部 1 ケース 400 枚提供し、保護具の推進も同時に行った。
- ・農薬安全適正使用ガイドブック 2023 年版の作成
2022 年 12 月「農薬安全適正使用ガイドブック」2023 年版 9,000 部を発行し以下の通り、無償及び有償分を会員の協力を得て配布した。

無償分		有償分	
特別会員	194部	安全協支部	4,299部
正会員	1,184部	組合員	365部
非組合員	44部	その他	98部
行政機関等	675部	合計	4,762部
賛助会員	111部		
関係団体	4部	無償＋有償	7,040部
その他	3部	在庫	1,960部
合計	2,278部		(6月末現在)

- ・毎年ページ数が増加しており、印刷と輸送コストの増は必至となるため、注意事項等の検討を行った。
- ・殺菌剤と殺虫剤のRACコードを付けたのに引き続き除草剤のRACコードを付けて掲載した。

毎回の確認が、安全・安心へ続く道

声出し、指差し、記録づけ。習慣にして、確実な適正使用へ。

無人航空機を用いた安全かつ適正な農業使用の徹底

農業用マスクなど防護装備を正しく着用

住宅地周辺の農業使用は周囲に配慮

土壌くん蒸剤の使用後は被覆して管理

農業を適切に保管して誤飲・誤食を防止

ラベル見よ

農業を使用する人の安全 農作物の安全 環境への安全

農薬安全 **ひと声** 運動

●農薬は農産物の安定供給に欠かせないもので、安全性が確認されたものが農林水産省で登録されています。

●農薬は安全な農作物を作るため、使用時期、使用回数など農薬の使用基準が定められています。安全な農産物生産のため農薬の使用基準を守りましょう。

中毒についての問い合わせ先 **中毒110番(公財)日本中毒情報センター**
 散布作業中や散布後の異常を感じた場合は、直ちに医師の手当てを受けてください。処置法などで不明なことは、医師から下記に電話してお尋ねください。

大阪 中毒110番 (365日 24時間対応) つくば 中毒110番 (365日 9時～21時対応)

●一般市民専用(通話料のみ) ☎072-727-2499 ●一般市民専用(通話料のみ) ☎029-852-9999 全国農業協同組合
 ●医療機関専用(1件につき82,000円) ☎072-726-9923 ●医療機関専用(1件につき82,000円) ☎029-851-9999 全国農業安全指導者協議会

(9) 事業収支見込について

安全協事業費収支予算実績推定表 支出の部 収入の部資料にて説明

(10) 2024 年度事業計画(案)について

○2024 年度運動方針・事業方針・スローガン(案)について

2024 年（令和 6 年度）運動方針・事業方針(案)

運動方針

- ・安全な農産物の確保を図るため、農薬使用者に対して農薬使用基準に定められた使用時期、使用回数等の遵守徹底を推進する。
- ・一般消費者に対し農薬の安全性、有用性等、農薬の正しい知識の普及に努める。
- ・農薬の保管及び物流における安全性確保のための危機管理を徹底する。

事業方針

I 農薬安全推進運動の実施

(1) 農薬の適正使用の徹底

- ・農薬取締法及び食品衛生法の周知徹底に努め、農薬の安全かつ適正使用を推進する。
- ・正しい農薬登録情報の伝達に努め、農薬使用基準順守の徹底を図る。
- ・「農薬安全使用のための 13 ヶ条」の確認を推進する。
- ・普及の進んでいるマルチローターでの農薬散布についての正しい情報の周知徹底に努める。

(2) 農薬の飛散防止対策の徹底

- ・周辺圃場への農薬飛散防止対策に取り組む。
- ・住宅地等における周辺住民への配慮の徹底を図る。
- ・「公園・街路樹等病害虫・雑草管理マニュアル」の遵守に努める。

(3) 「農薬安全ひと声運動」の実践

- ・農薬使用者と一体となった三つの安全（農薬使用者の安全、農産物の安全、環境への安全）の実践を基本とした「ひと声運動」を展開する。
- ・「ひと声運動」を行うため媒体品の有効活用に努める。

(4) 農薬安全使用のためマスク、安全具必着運動の推進

- ・安全作業の装備として、国家検定マスク（ライフ 350、ハイラック 330/335、ケミカットエース、ニチノー排気弁マスク、キーメイトマスク：クラレクラフレックス株）等の積極普及と取り扱い拡大を図る。防除衣については、現状、並びに今後の市場性を探り、新規取扱について見極める。

(5) 農薬販売者に対する農薬安全管理の徹底

- ・農薬販売に当たり火災、漏出、紛失、廃棄、及び輸送時の注意等につき管理の徹底を図る。

- (6) 農薬使用状況等生産履歴記帳運動の推進
 - ・ 農薬の使用状況、気象条件等を必ず記帳、記録保管の徹底を推進する。
- (7) 農薬の物流における安全性確保の徹底
 - ・ 安全協農薬物流マニュアルの活用（指導農薬講習会での資料配布等）
 - ・ 全農薬ポータルサイト（ホームページ）の活用を図る。
- (8) 空容器及び残農薬・廃棄農薬適正処理の推進
 - ・ 農薬工業会作成のガイドライン「使用済み容器内の付着農薬の除去と空容器の処分について」、「使用農薬の管理と処分について」や、農業生産資材適正処理全国推進協議会作成の「農薬空容器適正処理システム確立のための手引き」に沿った処理の推進を実施する。
- (9) 安全協が指定する指導農薬の危害防止対策の実施
 - ・ 毒性が強く用途外に使用されやすい農薬を指導農薬として指定することが出来る。
 - ・ 講習会を開催し危害防止に努める。
- (10) 必要に応じ、農薬に関する研修等への講師派遣を行う。

II 技術販売体制の強化

- (1) 「農薬安全コンサルタント・農薬安全コンサルタントリーダー認定者を育成し、技術販売を促進する。
- (2) 普及展示圃の実施
 - ・ 安全協会員の技術習得と全農薬取り扱い商品の普及拡大を図ることを目的に、展示圃場設置と伴に商品知識の習得に努める。
- (3) IPM(総合的病害虫・雑草管理)など新技術、新分野の導入推進を行う。
 - ・ IPM(総合的病害虫・雑草管理)の必要性を理解し、生物的防除資材等の適正な利用を推進する。
- (4) 「輸出サポート体制整備委託事業」の受託機関である(一社)全国植物検疫協会と連携し、農薬安全コンサルタントリーダーは専門委員(病害虫防除)として輸出サポート体制に協力する。

III 一般消費者への農薬安全性広報活動の実施

- ・ 一般消費者を交えた農薬シンポジウムを開催する。
- ・ 農薬工業会(含む支部)開催の農薬ゼミに協力する。
- ・ 講師として農薬安全性広報活動を実施する。

IV 活動計画

- (1) 本部の活動計画
 - ① 安全協組織の強化
 - ・ 道府県農薬卸業者団体及び小売業者団体、賛助会員との連携強化を図る。

② 全国集会の開催

- ・全国集会を開催し、活動状況を報告、また新年度の事業計画を策定する。
- ・農薬シンポジウム開催道府県は実施状況及び成果を発表する。

③ 地区協議会の開催

- ・地区協議会を開催し（全農薬地区会議に包括）、地区内正会員、特別会員の他、指導農薬関係メーカー、賛助会員等を交え、安全協活動推進について協議する。
- ・地区協議会の中で技術研修会を充実させる。（農薬安全コンサルタントリーダー資格取得へのポイントとする）

④ 常任幹事会の開催

- ・常任幹事（地区内代表幹事）が地域の情勢、要望等を常任幹事会に持ち寄り、次年度の活動方針及び地域活動の活性化を主体に検討・協議する。

⑤ 賛助会員打合せ会

- ・賛助会員と常任幹事との連携・交流を深める。講演会等を通じて情報を習得する。

⑥ 農薬費低減のための行動指針

- ・全農薬の行動計画の目標に従った防除を推進する。

⑦ 農薬ガイドブック 2024 年版の編集・発行

- ・2023 年 12 月下旬発行を目途に 2023 年 7 月末現在の新規及び適用拡大登録された農薬の収録、整理及び記載内容の見直し等に努め正確を期す。
- ・各道府県研修会受講者に頒布し、販売者への情報提供に活用する。
- ・食の安全、環境保全の推進等、関係者への普及を図る。

⑧ 資料、情報などの配布・提供

- ・全農薬通報等で会員が必要とする情報を迅速に提供する。
- ・農薬登録情報、病害虫発生関連資料等の情報を容易に検索、入手できるポータル(入口)を全農薬ホームページ上に掲載し、農薬の適正使用の推進に資する。
- ・賛助会員(農薬メーカー)の製品情報(技術資料・チラシ)を容易に検索、入手できるポータル(入口)を全農薬ホームページ上に開設、有効活用する。
- ・安全協の活動(リモート研修会、指導農薬講習会等)を入手できるポータル(入口)を全農薬ホームページ上に開設、有効活用する。

⑨ 農薬安全コンサルタントの養成

- ・日本植物防疫協会主催の「植物防疫研修会」を受講し、安全協構成の正会員(農薬安全コンサルタント)の養成を図る。
- ・植物防疫研修会の運営に参加する。

⑩ 農薬安全コンサルタントリーダーの養成

- ・農薬安全コンサルタントリーダー研修会を開催し、農薬安全コンサルタントの

技術の向上と技術販売体制の強化を図る。

⑪農薬工業会、緑の安全推進協会及び商系諸団体との連携強化

- ・行政における農薬の安全使用対策を確認するため、農薬工業会安全対策委員会及び緑の安全推進協会との交流を継続するとともに、新たに全肥商連等の商系諸団体との交流・連携を図る。

(2) 支部の活動計画

① 県別の重点活動テーマの実施（農薬安全コンサルタントの技術向上の為に研修会を開催する）

② 「指導農薬」講習会の開催

- ・メソミル剤、パラコート剤(混合剤)、クロルピクリン剤を指導農薬と定め、安全協支部が主催し小売商、農薬使用者等を対象に講習会を実施する。
- ・指導農薬講習会に、地域、業界状況に応じた研修を加え内容を充実、受講者の拡大を図る。
- ・安全協が実施する「指導農薬」制度の目的達成のため、関連メーカーとの緊密な連携を保つ。

③ 道府県「農薬管理指導士」「農薬適正使用アドバイザー」との連携

- ・地区関係機関と連携を図り、農薬の適正かつ安全な使用を推進する。

④ 一般消費者への農薬の正しい理解のための農薬シンポジウムの開催

- ・全国で毎年2ヶ所程度の開催地を選定し、行政、関係指導機関、農薬使用者及び安全協会員と生産者、消費者を交えたシンポジウムを開催する。農薬シンポジウムにおいて一般消費者の意識調査を継続する。選定された支部は安全協支部全会員が一丸となり計画、立案、実施に取り組み支部の活性化につなげる。

⑤ 道府県農薬危害防止協議会への積極的な参加

⑥ 安全用具使用実態調査の実施

- ・農薬使用者に対する「安全用具使用アンケート」を継続実施する。

⑦ 空容器、残農薬、廃棄農薬の適正処理

- ・農薬工業会作成の空容器及び使用残農薬についてのガイドラインを考慮し、当該地区の方針に準じ処理の推進に努める。
- ・地域の適正処理推進協議会との連携を図る。

スローガン

- ・農薬は正しく使って安全・安心
- ・農薬は作物を守る科学の力
- ・農薬の技術向上、日々研鑽

(11) 今後の活動計画

○2024 年度事業収支予算について

資料を用いて説明を行った。

○植防研修会および農薬安全コンサルタントリーダー研修について

- ・第 100 回植物防疫研修会

日時：2023 年 10 月 16 日（月）～20 日（金）

内容：詳細は決定後通知する

- ・第 101 回植物防疫研修会

日時：2024 年 2 月 5 日（月）～9 日（金）

内容：詳細は決定後通知する

- ・第 10 回農薬安全コンサルタントリーダー研修

日時：2023 年 10 月 18 日（水）～10 月 20 日（金）

全農薬ビル会議室において研修・試験を実施予定

今年は講師の先生を 3 名交代し、講義 1 コマを追加

○農薬ガイドブック 2024 年版の発行について

- ・発行を予定。印刷部数減について調整。毎年ページ数増加に対して、注意表示マークの配置、注意事項の省略等について検討。

○農薬シンポジウム開催について

- ・2024 年は、大分県に加えて、もう 1 支部で同様に開催すべく、関係機関と協議、調整していくことが検討された。
- ・各道府県支部の候補地について、関東地区における開催の検討を行い、栃木県支部による開催を進めることが決定した。

○危害防止月間 一声運動媒体品について

- ・今年と同様に各支部への要望調査を行う予定
- ・農薬希釈早見表の内容を無人航空機登録にあわせ改訂予定

○第 46 回全国集会について

- ・2023 年 11 月 16 日（木）海運クラブにおいて、例年通りの開催を予定
講演（案）「今後の植物防疫の在り方について（仮題）」
東京農工大学 副学長 有江 力 先生

○その他

- ・2023年度植物防疫地区協議会（植物防疫ブロック会議）（日程は調整中）

以上のとおり報告し、承認された。

講演会：15：30～17：00

「農産物の輸出に係る植物検疫と残留農薬について」

一般社団法人 全国植物検疫協会 技術顧問 藁谷 一馬 氏



なお、昨年までコロナ禍により本会議がオンラインあるいはハイブリッドで開催され、会議後の懇親会は中止されていたが、講演会の後には情報交換会が例年通り行われ盛況であった。

2. 農薬シンポジウム in 山形 2023 開催のお知らせ

コロナ禍で開催を2020年より延期してきた「農薬シンポジウム」ですが、山形県で以下の通り開催する運びとなりましたので、ご案内いたします。

日時：2023年9月12日（火）13:30～16:00

場所：山形国際交流プラザ 山形ビッグウイング

<http://www.convention.or.jp/bigwing/shisetsu/>



時間 13:30～16:00
[受付開始13:00～]

会場 山形ビッグウイング
4階 中会議室
(山形市平久保100番地)



講演 基調講演「農薬とは何？」

講師 千葉大学名誉教授
本山 直樹 先生



パネルディスカッション

テーマ 「食の安全性と農薬の役割(仮題)」

コーディネーター 山形県農業総合研究センター副所長
(兼)研究企画部長

横山 克至 様

**パネリスト
(生産者代表)** 王将果樹園 代表取締役
(有)鶴岡協同ファーム

矢萩 美智 様
五十嵐一雄 様

**パネリスト
(消費者代表)** 山形県消費生活サポーター

今田久美子 様

当日アンケートにお答え頂いた方にプレゼントをお渡しいたします!

主催/全国農業安全指導者協議会 後援/山形県

関係団体からのお知らせ

オンライン
配信

1. 第38回報農会シンポジウム

『植物保護ハイビジョン2023』のご案内

～新たな展開を見せるグローバルな動きと持続性を見据えた植物保護～

主催:公益財団法人報農会

協賛:日本応用動物昆虫学会、日本植物病理学会、
日本農薬学会、日本雑草学会

日時:令和5年9月20日(水) 10:00～16:00 (オンラインによるライブ配信)

<プログラム>

開会:10:00～10:10 挨拶

報農会理事長 田付貞洋

講演:10:10～11:00 『みどりの食料システム戦略』における植物防疫分野での取り組み
農林水産省消費・安全局植物防疫課 岡田和秀

11:00～11:50 植物防疫法改正によって変わる雑草管理

京都大学大学院農学研究科 黒川俊二

11:50～13:00 休憩

13:00～13:50 近年におけるカンキツグリーンング病の発生状況と対策研究

東京農業大学農学部 岩波 徹

13:50～14:40 外来カミキリムシ類の動向と対策

農研機構植物防疫研究部門果樹茶病害虫防除研究領域 上地奈美

14:40～15:30 日本茶の輸出現況

日本茶輸出促進協議会 佐塚 高

15:30～16:00 総合討論

参加費:3000円(講演要旨集を含む。ただし、講演要旨集のみ購入の場合2000円)

申込み:報農会ホームページに掲載しております『開催要領』をご覧の上、申込用紙に必要事項を記入して、メール又はFAXでお申し込みください。

なお、シンポジウム終了後同じURLで、報農会主催の第38回功績者表彰式をオンラインで行います。お時間の許す方は是非ご覧ください。

(功績者表彰式は16:15～16:45)

連絡先:公益財団法人報農会事務局

〒187-0003

東京都小平市花小金井南町1-12-11 BLOSSOM みさと

TEL/FAX:042-452-7773

Email :khon0511@car.ocn.ne.jp

URL:<http://www.honokai.org/>

2. 日本植物防疫協会 シンポジウム

「中山間地域における病害虫防除の課題」 2023年9月27日～9月28日

1. 日時・場所

- 9月27日 13:00～17:30 講演会
ホクト文化ホール(長野県県民文化会館) 長野県長野市若里 1-1-3
- 9月27日 18:00～20:00 情報交換会
ホテルメトロポリタン長野 長野県長野市南石堂町 1346
- 9月28日 9:00～14:00 新技術実証・実演会
ビッグハット(長野市若里多目的スポーツアリーナ) 長野市若里 3丁目 22番 2号

2. 主催：一般社団法人日本植物防疫協会

3. 趣旨：中山間地農業は、我が国の農業において農業経営体数、農地面積及び農業産出額の約4割を占めるなど重要な位置を占めている。我が国では、農業従事者の減少・高齢化が進み、担い手不足解消が喫緊の課題となっており、そのために効率的な農業生産振興に向け大規模化の推進が図られている。しかし、大規模化が困難な中山間地農業では、異なる手法での効率化が求められている。スマート農機・新しい防除機は、人手不足、担い手不足を解消し、農作物栽培や病害虫防除の効率化を図る上で重要な手段と考えられる。省力化・効率化に資する農業技術、防除技術の講演と農機の実演を行い、今後の課題について知見を深める。並びに、高い生産量と広範囲で栽培されるメジャー作物とは異なり、地域限定で栽培されるマイナー作物生産における病害虫防除の現状と課題を明らかにし、情報共有を図る。

4. 参集範囲

国及び都道府県の行政・試験研究機関、普及指導機関、独立行政法人、大学、JA、農薬メーカー、防除機メーカーおよび関係団体（定員 300名）

5. プログラム

講演会(9月27日 13:00～17:30)

(1) 中山間地域における植物防疫の重要性

農林水産省消費・安全局植物防疫課 羽石 洋平 氏

(2) 信州伊那谷におけるスマート農業技術の導入実証(仮題)

長野県農業試験場 鈴木 尚俊 氏

(3) 傾斜地カンキツ栽培における無人航空機を利用した病害虫防除と今後の展望

静岡県経済産業部産業革新局 増井 伸一 氏

(4) 愛知県におけるマイナー作物防除の現状と課題～多様な需要に応えるために

愛知県農業総合試験場 藤田 智美 氏

(5) 奈良県の薬用作物における病害虫防除の現状と課題

奈良県果樹・薬草研究センター 米田 健一 氏

(6) 総合討論

新技術実証・実演会(9月28日 9:00～14:00)

(1) 農機メーカーによる実証試験結果報告

(2) 農機メーカーによる農機展示

(3) 農機メーカーによる農機の実演(雨天の場合は一部のみ)

参加農機メーカー

株式会社関東甲信クボタ、株式会社丸山製作所、DJI JAPAN 株式会社、
XAG JAPAN 株式会社、有光工業株式会社、株式会社 IHI アグリテック

日植防HPシンポジウムのご案内 詳細は下記の URL より

<https://www.jppa.or.jp/event/symposium>

行政からのお知らせ

1. 食品衛生法施行規則の一部を改正する省令及び食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件について

令和5年7月26日

農林水産省消費・安全局農産安全管理課
農薬対策室課長補佐（農薬検査班担当）

食品衛生法施行規則の一部を改正する省令及び食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件について、令和5年7月26日付け生食発0726第1号厚生労働省大臣官房生活衛生・食品安全審議官通知が出されましたので、お知らせします。

食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件（令和5年厚生労働省告示第240号）により、下記の申請に係る農薬の残留基準値が設定又は変更されました。

記

イソプロチオラン（フジワン等、殺菌剤・殺虫剤・植物成長調整剤）
ピリダクロメチル（ワイルドカード等、殺菌剤）
メトブロムロン（プロマン等、除草剤）

通知は以下のURLより：

<https://www.mhlw.go.jp/content/001125368.pdf>

2. サツマイモ基腐病に強い抵抗性を有する 青果用新品種「べにひなた」

－ 南九州における青果用サツマイモの安定生産に貢献 －

2023年8月29日

農研機構研究成果プレスリリース

農研機構は、サツマイモ基腐病に強い抵抗性を有する青果用品種「べにひなた」（系統名：九州201号）を育成しました。「べにひなた」はホクホクとした肉質でやさしい甘さがあり、外観品質に優れ、「べにはるか」並みに多収です。サツマイモ基腐病のま

ん延が深刻な問題となっている南九州の青果用サツマイモ産地への普及により、サツマイモの安定生産に貢献すると期待されます。

研究成果概要

宮崎県や鹿児島県など南九州の青果用サツマイモの産地では、主に「高系 14 号」と「ベにはるか」が作付けされていますが、いずれの品種もサツマイモ基腐病に弱いため、基腐病による深刻な被害が問題となっています。基腐病が発生している産地では基腐病に抵抗性のある品種の作付けを進める取り組みが行われていますが、青果用の抵抗性品種は限られており、新しい抵抗性品種の開発が強く求められています。

今回農研機構が開発した「ベにひなた」は、基腐病に強い抵抗性を有することを特長とする青果用新品種です。抵抗性の程度は、従来品種よりも優れる“強”です。ホクホクとした肉質でやさしい甘さがあり、外観品質に優れ、「ベにはるか」並みに多収です。貯蔵しても肉質が変化しにくく加工原料としての安定性があるため、食品加工用途での利用も見込まれます。



基腐病抵抗性品種「ベにひなた」は、南九州での青果用サツマイモの安定生産に向けた新たな一手として普及が期待されます。

成果の詳細は以下の URL より

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/159534.html

<参考>

サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策(令和 4 年度版)

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/158250.html

サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策 標準作業手順書

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/laboratory/naro/sop/152513.html

全農薬ひろば

サルスベリ（百日紅、猿滑、英名：Crape myrtle、学名：Lagerstroemia indica）

ミソハギ科サルスベリ属の中木で、中国南部原産で世界の熱帯各地に分布する。熱帯地域でない日本などでは落葉樹である。日本へは江戸時代以前に渡来したと言われている。樹皮は見るからに滑らかな表面をもち、木登りが上手なサルでも、滑り落ちるほど樹皮が滑らかという例えから名付けられている。花が咲く期間が長いことから、ヒャクジツコウ（百日紅）の別名もあり、漢名もまた百日紅である。



樹体は全体に淡褐色で、所々がはげ落ちて白く、濃淡が混じった斑模様になる。特に幹の肥大成長に伴って、夏に古い樹皮のコルク層が剥がれ落ち、新しいすべすべした感触の樹皮が表面に現れて更新していく。

葉は通常 2 対互生、対生になることもある。葉身は倒卵状楕円形。春の芽吹きของ時期はやや遅く、新葉は樹皮の色に似て赤味を帯びる。花期は 7～10 月。花は紅色または白色で、円錐花序になり、がくは筒状で 6 裂、花弁は 6 枚で縮れている。



花の時期が長いので庭園・公園樹に用いられるが、うどんこ病（※）に弱い欠点がある。1970 年代米国において、ヤクシマサルスベリがうどんこ病抵抗性をもつことから、同属他種交配によりうどんこ病抵抗性品種が作出され、1990 年代には神奈川県園芸試験場がこれら栽培品種を導入して、うどんこ病に強く、日本に適した品種も作出されている。（一部 Wikipedia 等より引用）

※うどんこ病（英名：Powdery mildew、子嚢菌のウドンコカビ科 *Erysiphaceae*）の絶対寄生菌（生きた植物に寄生することによってのみ生存可能な菌で、人工培養ができない）による植物病害の総称。農作物においてはムギ類、ウリ科・ナス科野菜、ブドウ・バラ科果樹などでは、防除対策が必須な重要病害であり、予防的な防除や早期発見による対策が望まれる。DMI 剤、Qol 剤などの農薬は本病害に卓効を示すが、近年では耐性菌の発達が問題となっていることに注意する。



撮影場所：藤沢市

花言葉：『雄弁』、『饒舌』、『あなたを信じる』